



えど友ホームページ http://www.edo-tomo.jp/

计与	東京	诸帕	始长	MA	△ 組
4LF	苏 苏	田田	彫み	Wa	云和

	平成 22 年度 定期総会のご案内	えど友プラザ 「三ノ輪から南千住周辺を訪ねて」 7
	友の会セミナー 「『江戸名所図会』の成立について」 2	「柳原通り (土手) を歩く」 7
1	友の会セミナー 「北条氏照と八王子城」 3	「江戸博に嫁入りした娘」 8
_	特別観覧会「チンギス・ハーンとモンゴルの至宝展」4	「司馬江漢と『春波楼筆記』」9
於	江戸博クリップ 「模型、映像管理こぼれ話」 4	第2回「えど友研究発表会」の発表者を募集します9
	見学会「広重『江戸百景』周辺の探訪―その2(上野周辺)。…5	落語で江戸散歩…⑭ [文七元結]10
	えど友サークルだより / 会議・会合日誌6	催事案内 / 会員優待のお知らせ 11~12

平成22年度 定期総会のご案内

5月28日(金) 12時45分開始

~竹内館長の記念講演は「相撲の歴史と文化」~

江戸東京博物館友の会は平成 22 年 度の定期総会を来る5月28日(金)の 12時45分から開催いたします。お 誘いあわせのうえ、どうぞ奮ってご参 加ください。

友の会は平成13年に発足、今年で まる10年になります。この間、各種 事業が順調に開催されておりますのも 会員の皆さまと江戸博のご協力の賜物 と厚くお礼申し上げます。今年は10 周年という節目の年にあたりますので、 いろいろな記念事業をご提供すること にしました。

友の会は会員皆さまが自ら参加し、 作りあげていく団体です。定期総会は

会員の皆さまが一堂に会する年に一度 の機会で、過去1年間の活動を振り返 るとともに、本年度の活動について率 直な意見を交換する場です。同封の議 案書をご検討いただき、多くの会員の 皆さまがご出席くださいますよう、お 待ち申し上げます。

開催要領は次の通りです。

■平成 22 年度友の会定期総会

日時 5月28日(金) 12時45分 会場 江戸東京博物館1階ホール

●主な議案

- ・平成21年度事業報告並びに収支決 算報告について
- ・平成22年度事業計画案と事業予算

案について

・友の会規約の改正について

■竹内館長の記念講演

総会に引き続き、江戸博館長竹内誠 氏による「江戸博友の会創立 10 周年 記念講演・国際博物館の日記念講演」 と銘打った「相撲の歴史と文化」があ りますのでご期待ください。

■懇親会

講演会終了後、16時20分より江戸 博2階の「フィンズ カフェ&レスト ラン」にて懇親会(会費500円)が 開催されます。会員同士、会員と役員、 部会員との交流等懇親を深める良い機 会です。こちらもぜひご参加ください。

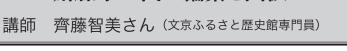
「友の会会員が選ぶ東京新百景 | 写真募集中!

10 周年記念事業の一つで、多くの会員の皆さまのご参加を期待しています。 応募方法などは同封のチラシをご覧になり、お気軽にご応募ください。

第89回 江戸東京博物館友の会セミナー(2010/1/23)

「『江戸名所図会』の成立について」

齋藤家三代の編纂と出板―





天保5(1834)年、同7(1836)年の 2回にわたって刊行された全7巻20 冊の和装本です。書名に「江戸」とあ るので東京23区はもちろんですが、 実際には多摩、大宮、横浜など郊外も かなり広範囲に含まれています。名所 を平易な文章で紹介し、鳥瞰図を中 心とした多数の挿絵で江戸の様子をよ くあらわしています。

編纂したのは、代々神田雉子町に 住んで名主を務めた齋藤家三代です。 名主としては九代目の長秋、十代 目の県麿、十一代目の月岑の3人に よって、書かれました。月岑は『江戸 名所図会』のほかにも『武江年表』、『東 都歳事記』などの著作も有名です。絵 師は長谷川雪旦で、町絵師として活躍 していました。『江戸名所図会』の挿 絵で有名になりましたが、ほかに『江 戸名所花暦』『東都歳事記』などの挿 絵も描いています。

『江戸名所図会』出板まで

長秋が京都の『都名所図会』をはじ めとする各地の名所図会の刊行に影響 を受け、人の勧めもあって『江戸名所 図会』の編纂を決意します。その決意 を、寛政 12(1800)年に序文として 残しています。しかし、『江戸名所図会』 が実際に世の中に出たのは天保5年、 長秋の序文から30年が経過していま す。なぜこんなに時間がかかったので しょう。

この時代、まず本を出すには内容の 検査を受けなければなりません。将軍 や大名のことを書いたり、人心を惑わ すようなことを書いたりするのは禁じ られていたため、内容を確認されます。 まず、写本(草稿)の段階で書物問屋 仲間、町年寄の順に検査されます。そ れで許可を受けたら、次は板木に彫っ て摺り、刷ったものを審査されます。 『江戸名所図会』が出板許可を得たの は寛政 5(1793)年、刷り終わった本 が、書物問屋仲間から販売許可された のは文政 3(1820)年です。書物を出 板するには、様々な手続きがあり、時 間がかかったのです。

長秋が亡くなったあと、県麿が『江 戸名所図会』の範囲を横浜、多摩、大 宮など郊外まで広げました。県麿の代 では板木に彫ったものもあれば、原稿 しか完成していない部分もあり、全体 の進行状況に差がありました。長秋が 寛政に書いた遺稿に加え、月岑がこれ らを整理して、天保の刊行にこぎ着け ました。月岑が祖父から受け継いだ編 纂事業は、寛政5年の出板許可からみ ると刊行までに40年以上かかってい ます。

では、『江戸名所図会』に書かれた 江戸は、いつの江戸なのでしょう。月 岑が文政に書いた附言によると、寛政 から文政までの町並みの移り変わりを すべて改めることはできないので、文 政の今とは違うところもあると書かれ ています。

このように3人によって書かれた 『江戸名所図会』ですが、名所を紹介 する文章からは誰が書いたものかわか りません。これは明確な編纂方針が あったためと思われます。また、月岑 が内容を統一すべく、手を入れている 可能性もあります。編纂方針の中に は、江戸の繁栄を江戸以外の人々に知 らせ、子供でも飽きずに読めるものを 書くというものもあります。また、編 纂開始から出板まで40年もかかった



背景に、調査を行ったことがあります。 このような地誌は、実際に現地を歩い てみないと書けません。その資料をご 紹介します。

『江戸名所図会』の編纂―県麿の調査

3人とも調査には出かけているはず ですが、現存している調査記録は県麿 のものしかありません。それは『郊遊 漫録』という本で、表紙にどこに行っ たかを書きだしています。

『郊遊漫録』を見ると、何度も行っ た場所があります。それは、一度で調 査がすまなかったということが考えら れます。誰かの紹介を得てというわけ でもなく、まず現地に赴き、その調査 先で現地の人に色々尋ねて情報を得て います。いきなり行くわけですから、 うまく調べられないことも多かったの ですが、このような苦労した出来事と いうのは『江戸名所図会』には、一切 書かれていません。また逆に、訪問先 の相手と意気投合して何度も行き、貴 重な情報を得ることもありました。

おわりに

『江戸名所図会』の編纂は齋藤家三 代が約40年の歳月をかけ、対象とな る区域も拡大されて完成しました。内 容を読んでも、3人の手になるものと はわかりませんが、これは明確な編纂 方針に基づいて書かれたためと考えら れます。編纂のためには、たいへんな 調査の苦労がありました。その記録が 『郊遊漫録』です。これにより、『江 戸名所図会』には書かれていない調査 の様子がわかります。同時代の戯作 者・曲亭馬琴も齋藤家の努力と雪旦の 挿絵を高く評価しています。

【記録】文・写真: 広報部会・中村貞子

北条氏照とは

北条氏照とは、小田原に本拠を置い た北条早雲・氏綱・氏康・氏政・氏直 と五代百年続いた戦国大名の三代氏康 の次男、すなわち四代氏政の弟で、天 正9~11(1581~1583)年のいずれ かに生まれ、徳川家康(天文11(1542) 年生まれ)とは同年輩です。幼名を北 条藤菊丸といい、氏康は関東管領の山 内上杉憲政を越後に追い武蔵国を勢力 下に置いたものの反旗をひるがえす者 が多く、氏照を大石氏の養子にし大石 源三氏照と名乗らせ滝山城の領主にし ました。同時に3男の氏邦も藤田氏 の養子にし鉢形城の領主にして2人 で武蔵、下野、上野、常陸、下総の諸 城を落とさせました。永禄5(1562) 年から天正5(1577)年のことです。 この間鎌倉の鶴岡八幡宮で関東管領と なった上杉景虎(謙信)に対抗上、古 河公方足利氏 (氏照の従兄) の権威を 利用し、北条に復姓し、陸奥守を名乗っ て北条一の戦上手でした。氏康の指令 書には、「陣を取るに当り氏照の陣取 の様子を手本にせよ」(豊島宮城文書) とあります。また「遠交近攻策」で、 会津の芦名氏、出羽米沢伊達氏と好み を通じて近くの城を落とし、永禄12 (1569) 年には甲・相・駿の3国同 盟を破った信玄に対して越後の上杉と 手を結ぶ (越相同盟交渉) などしてい ます。また信長、家康とも親交があり、 情報収集にも長けた人物でした。

氏照八王子城築城し入城

八王子城のある由井地域は八日市場 を中心に経済的に栄え、高尾山薬王院 など伝統的寺院、横川八幡神社など宗 教的聖地で、鎌倉街道、甲州街道の集 まる交通の要衝で、背後の急峻な城 山は比高 200 mの要害で、氏照は早 くから目をつけていました。永禄12 (1569)年には滝山城が信玄によって 落城寸前までいったこともあり、元亀 2(1571)年牛頭山寺に与えた禁制の 中に「横地堤」「大木戸口」という言 葉があります (宗関寺文書)。天正6 (1578)年には高尾山を「八王子御根 小屋」と呼び(薬王院文書)、天正9 (1581)年「八王子番」として守備兵

第 90 回 江戸東京博物館友の会セミナ 篩 土井義夫さん (八王子市郷土資料館学芸員) 27 |



を置くなどしています(並木文書)。 天正10(1582)年武田勝頼が滅亡、本 能寺の変で信長が没すると、氏照は上 州から信州を経て甲州に攻め入り、家 康と対陣、甲斐・信濃は徳川、上野は 北条の自力獲得の領土協定をして、氏 直に家康の娘が嫁いで和睦しました。

ところが天正11(1583)年同盟し たばかりの家康が秀吉と小牧・長久手 の戦いを起し、北条は秀吉の東上を意 識し、武蔵・相模・伊豆の諸城の改修 を行い、天正12(1584)年には八王 子城も本格的に築城を始めました。天 正 14(1586)年11月15日豊臣秀吉 の私戦停止令「惣無事令」が出て、天 正15年3月13日狩野一庵に八王子 城の普請を任せたという岡見文書が八 王子城より発せられており、この時に 入城したものと思われます。天正15 年7月に「腰さし類のひらひら、武 者めくやうに可致支度事」と15歳~ 70歳の戦闘要員徴集の北条家定書が 出ています。天正16(1588)年正月 大工その他の職人衆の動員(土方文書) をして、豊臣秀吉との臨戦態勢に入り、 氏照は小田原城の改修に入っていたの です。

八王子城落城

氏邦の家臣上野国沼田城城代猪俣邦 憲が天正 17(1589)年真田昌幸の名 胡桃城を攻め落とし、「惣無事令」違 反として、同年11月24日秀吉が宣 戦布告、天正 18(1590)年6月23日 未明より前田利家を総大将に越後の上 杉景勝、真田昌幸を加えた数万が横地 監物・狩野一庵・中山勘解由の老将と 農民、山伏、職人約1千数百人がこも る城を攻めて半日で落城しました。

徳川の武将榊原康政が加藤清正に 送った戦況報告には「八王子城は氏照 が年来築城してきたもので、まことに 鳥や獣が飛び回るようで、立つのも困 難な城ですが、前田利家を総大将と して信濃、越後の軍勢が押し寄せて6 月23日の早朝に攻め落とし城代横地 はじめ1千も討ち取りました」(水戸 松平文書)とあります。前田利家が国 元に送った手紙は「八王子城攻めのこ とは時間をおかずに攻め落とすように 申しつけたが名城の為討ち死に手負い の兵士が限りなく出てしまった」(尊 経閣文庫文書)と伝えています。

狩野・中山の首を小田原城に届け、 妻子を舟にのせこぎ寄せ戦意を喪失 させたので北条氏は7月6日降伏、7 月11日氏政・氏照は切腹しました。 辞世は「天地の清き中より生まれ来 てもとのすみかへもどるべらなり」(太 閤記)。氏直ほかは高野山に追放、天 正 18(1590)年8月1日家康が江戸 城に入城、戦国時代最後の名城が滅び 新しい時代の幕開けとなったのです。

平成18年2月日本城郭協会により 都内では江戸城・八王子城が「日本百 名城」に認定されています。

御主殿跡の発掘遺物

八王子市教育委員会では、平成4 年から2カ年計画で八王子城御主殿 の発掘調査をしました。発見された遺 物、特に陶磁器類には中国明代の染付 皿、白磁の皿と青磁椀、陶器などが多 数あり、16世紀のベネチアのレース 模様のガラス器など珍しいものがあり ました。

【記録】文・写真:広報部会・原盛年

江戸東京博物館友の会特別観覧会 (2010/2/5)

特別展「チンギス・ハーンと モンゴルの至宝展



この特別展は、中華人民共和国・内 モンゴル博物院の協力で実現したもの で、会期は〈2010年2月2日(火) ~4月11日(日)〉、会場は1階企画 展示室でした。

友の会では、2月5日(金)17時よ り 19 時迄、会員 110 名、同伴者 14 名の参加により、特別観覧会を行いま した。まず、映像ホールにおいて、当 館の我妻直美学芸員による「見どころ 解説」がありました。チンギス・ハー ンそのものの資料は少ないのですが、 帝国の前後のものと組み合わせた展示 物の流れ、五部族の出土品の見方など、 この後行われた企画展示室での自由見 学におおいに役立つ情報をいただきま

企画展示室に移動すると、入口には 巨大なチンギス・ハーンの騎馬像が展 示されていて圧倒されます。会場内の 流れは中国国家一級文物 54 点を含む 159点を、モンゴル騎馬遊牧民族が 戦国時代に活躍した東胡族から、匈 奴族、鮮卑族、突厥族、そして 917 年に建てた契丹族まで、五部族に分け て展示してあります。

東胡族は青銅器文化を創造、匈奴族 は最初の遊牧王朝を打ち立て「鷹型金 冠」や「彩色木馬」「オルビス式青銅器」 など動物文様をうまく使った出土品が 多く見られます。次の時代を担った鮮 卑族は仏教を尊崇して中国仏教の発展 の基礎になりました。精巧な金製品の 出土品も多く、その中でも「金製鹿頭 形冠飾り」歩揺冠は歩くと金属の触 れあう音がすることで身分の高さを表 わす物で、鮮卑族の典型的な鹿文様の 代表格です。紀元7世紀前後に活躍 した突厥族は、この地の遊牧民の中で 最初に文字を作り出しました。ゆった りとした牛の姿の陶製「灰陶牛」は牧 畜を重視していた当時の状況を反映し た出土品です。契丹族は武器装備の騎 兵の強さで繁栄しました。墓のほとん

どで馬具が副葬品とされており、それ を示しています。唐や宋の埋葬習慣の 影響を受ける前には独自の葬儀風習が あり、「黄金のマスク」のように顔に 被せたり髪の部分に金の網を着けるの は、その特有の風習の一つです。

1206年モンゴル帝国を建てたチン ギス・ハーンは各地に軍を出して征服 活動を行い、その版図は史上最大を誇 るものになりました。1227年西夏遠 征中に死去。墓からの出土品として、 短剣、印、鎧、長衣、冠、酒器等と共 に生前、戦いや狩猟、生活で使用され た「伝チンギス・ハーンの鞍」数点 も展示されています。

その後のモンゴル文化には、明・清 時代の影響が色濃く華やかで美しいも のが多く、「龍が彫ってある玉座」や 「ルビー装飾の親王の帽子」、(頂部の 赤い玉は日本においてルビーの原石と 判明、一躍脚光をあびたもので必見) 「龍紋彫刻馬頭琴」などが整然と陳列 されています。現在、遊牧が一般的な モンゴル国と半農半牧の内モンゴル自 治区に分かれていますが、モンゴルは 今なお、私たちに興味と話題を与えて くれます。

【取材】文・写真: 広報部会・松田悠美子









「模型、映像管理こぼれ話」 学芸員

2年前の4月に江戸博に移ってきま した、阿部と申します。平成16年4 月から1年間、江戸博で仕事をした ことがありますが、それ以外は分館の たてもの園で、小金井公園の自然に囲 まれながら仕事をしておりました。こ のコラムが掲載される5月は、たても の園内は新緑の季節。散策にはうって つけの時期です。機会がありましたら、 ぜひ足を運んでみてください。

さて、現在私は、当館の常設展示室 の模型や映像の管理をする仕事をして います。それらのメンテナンス作業の 中から、ちょっとしたこぼれ話を。

室内各所に設置している展示映像装 置。常時放映されているものもあれば、 ボタンを押すことで映像や音声が流れ るものがあります。メンテナンスのた め、それらを開けてみると…。中から 館内で配布しているパンフレットやチ ケットの半券が…。わずかな隙間に入 れてしまうのでしょうか? 時には、 小学生が見学の際に使った見学のしお りやワークシートが! 見学終了後、 先生に怒られなかったか心配になって しまいます。

また昨年は、「四谷怪談模型」のト ラブルが続出。直しても直してもトラ 部由紀洋

ブルが発生し、その上はつきりとした 原因がわからない、という不可解なこ とが起こりました。職員の間では、「お 岩さんのたたりでは…」と、まことし やかにささやかれたのでした。「今年 はお祓いに行きましょうね」とも。ち なみに、機械のそばには、お供えが置 かれ、お札が貼られています。

その他、いろいろと「?」と思うこ とがあるのですが、それはまたの機会

◆このコラムは江戸博の学芸員や講師など 館職員の方に執筆をお願いしています。

江戸東京博物館友の会 見学会 (2010/3/28)

広重『江戸百景』周辺の探訪―その2



例年より早い開花宣言にもかかわら ず凍えるような冷たい春風の中、つぼ みが開きかけた上野周辺を、約200人 の会員が広重推奨の江戸名所を歩きま

広小路から上野の山とお花見歩き

スタートは「下谷広小路」図描写場 所と思われる上野松阪屋向かいの交差 点です。切絵の屋号と松坂屋デパート の場所を鍵に、同方向を眺めます。将軍 が寛永寺へ参詣する折に通った御成道 であり、かつては両側に町屋が立ち並 んでいた大通りです。ここから江戸っ 子気分で湯島天神へ向かいます。

「湯しま天神坂上眺望」図は坂を昇 りきって振り向いた方向です。残念な がら不忍池は建物で見えませんが、坂 の上から見下ろしたであろう高低感は わかります。庶民の娯楽地としてもに ぎわったそうで、切絵では男娼といわ れる陰間も描かれています。境内を抜 け不忍池方面に階段を下ります。

中央通り沿い、上野公園前交差点よ り 100m 程南の場所が「上野山した」 図です。小粋な料理屋「伊勢屋」の あった辺りは大手カラオケ店と有力総 合電機販売チェーンが堂々と建ち、裏 は有名なアメ横。アメ横は当時は五條 天神がある神聖な場所でした。ここほ ど、古今の変化が顕著な場所はないか もしれません。



▲上野山した(ヨドバシカメラあたり)

上野の山の階段を上り西郷隆盛像を 右手に進みます。この像は実物と全く 似ておらず奥様が嘆かれたとか。ここ は、いまや大道芸等でにぎわう大衆的 な花見の名所ですが、当時は寛永寺境 内であり、上野の花見は高尚と言われ たそうです。階段を上り、上野戦争、関 東大震災、第二次世界大戦を生き延び た力強い清水堂へ。ここからの一望が 「上野清水堂不忍ノ池」図です。変わ らぬ桜と池を舞台に歴史が流れました。 「上野山内月のまつ」図の丸く奇妙な 形に伸びる松は、いまはありません。



▲清水観音堂へ

上野戦争で焼け野原になった広い敷 地は西洋風公園として生まれ変わりま した。しかし、公園内にはあちこちに 江戸の名残があります。芭蕉の句で有 名な上野の時の鐘は、市中の公認され た9つの鐘の中、設置後全く場所を移 動していない唯一の鐘だそうです。

東照宮から寛永寺へ

途中、上野東照宮に向かいます。堂々 たる銅灯籠・石灯籠群は、大名諸侯が 揃って神君をお守りしているようだと いわれますが、今日は花見客と出店で 埋め尽くされています。

そのまま国立博物館方面に歩きます。 ここは寛永寺根本中堂が本来あった場 所です。天海上人が江戸城の鬼門にあ たる上野の山に建立した寛永寺は、破 格の扱いをうけ、この辺り一帯を寺院 で埋め尽くす壮大なものでした。噴水 公園として人々が和むいま、面影はな く碑が残るのみです。



▲寛永寺根本中堂跡を行く

明治以降の建築物の由来や京成電鉄 の駅舎跡など興味をそそる説明を聞き ながら、現在の寛永寺まで歩きます。

寛永寺には6人の将軍の墓や篤姫の墓 などがあり、本堂脇には、最後の将軍 慶喜が謹慎中に過ごした部屋「葵の間」 が残る建物があります。ここに眠る将 軍達は現代の政治の迷走、多様化する 価値観をどう見ているのでしょうか。

昔の粋が残る千駄木方面へ

谷中から今度は千駄木方面へ歩きま す。混雑した上野とは異なり閑静な寺 としゃれたお茶屋が続く小粋な通りで す。途中、山岡鉄舟や三遊亭円朝の墓 のある全生庵や、笠森お仙と鈴木春信 の碑がある大円寺に立ち寄り、今回最 後の切絵場面、団子坂へ向かいます。

「千駄木団子坂花屋敷」図では当時た いへん繁盛した植木屋宇平次が開いた 花屋敷が描かれています。中学校と図 書館に挟まれた藪下通りから団子坂を 眺めますが、もちろん花屋敷の気配は なく、浮世絵を想起させるものはまっ たくありません。昔は団子坂から海が 見えました。切絵の池らしきものが何 処なのか諸説あるそうです。広重の絵 には、景色の印象を高めるために実際 と違う構図を工夫しているものも多い そうです。

江戸の町民のごとく花を愛で、上

野戦争とその 後の変遷に思 いを寄せ、途 中で6人の将 軍をしのんだ 一日は、まさ に桜のように 花開き散って いった江戸の 栄枯盛衰を感 じるものでし た。見学の最 後に振り返る



▲千駄木団子坂上の桜

と 21 世紀の新名所になるであろう建 設中の東京スカイツリーがくっきりと 空高くそびえていました。

> 【記録】文:広報部会・深尾恵美子 写真:同・佐藤美代子

サークルだるり

◎活動概況

- ◆江戸東京を巡る会: 2月9日(火)「江戸の坂本龍馬のロマンスを追う〜千葉佐那との隠された恋」というテーマで、千住の勝専寺、源長寺、千住宿本陣跡、名倉医院などの史跡を歩き、千葉定吉の千葉道場跡、土佐藩邸中屋敷跡などをめぐった。参加者44名。
- ◆落語と講談を楽しむ会: 2月16日(火)藤村一夫さんの世話で「国立演芸場2月中席」の演芸を鑑賞した。特に「鹿芝居」(噺家による芝居)は初めて見る人が多く、その面白さにみな感心していた。参加者17名。3月23日(火)島田昭さんの世話・女性講談師宝井琴柑さんの案内で、「義士本懐引き上げコース」の散策を行った。12月の女流講談会のテーマ「赤穂義士伝」を受けたもの。両国から吉良邸跡、回向院、大高源吾句碑などを歩き、地下鉄で泉岳寺に行き見学後、近くのそば屋で盛り上った。参加者16名。
- ◆藩史研究会: 2月12日(金)山口義正さんが大和国郡山藩の歴史について、現地視察の報告を含め研究発表を行った。参加者 27名。3月12日(金)加藤廣江さんが喜連川藩の誕生から廃藩にいたる歴史について、外様ながら特殊な地位を与えられていたことなどを中心に、鎌倉公方などの関連事項を含め、研究発表を行った。参加者は33名。
- ◆古文書で『八丈実記』を読む会: 2月11日(木)、2月 26日(金)、3月11日(木)、3月26日(金)に例会を開催。 参加者は各8、5、10、9名。
- ◆神田川を歩き楽しむ会: 2月25日(木)、28日(日)に 第4回として、井の頭線「永福町」駅から永福橋へ出 て善福寺川・神田川合流点まで神田川に沿って歩いた。 途中、永福寺、龍光寺(新四国八十八ヶ所和泉霊場)、

文殊院(江戸御府内八十八ヵ所八十八番札所)、東運寺などに寄り参拝・見学を行った。参加者は各50、31名。3月21日(日)、25日(木)に第5回として、JR「西荻窪」駅から善福寺に参拝したあと、善福寺池、遅の井の滝などをめぐり善福寺川基点の美濃山橋へ出て、駅通橋まで善福寺川に沿って歩いた。途中、井草八幡宮に寄り神職の案内で境内および井草民俗資料館を見学した。参加者は各30、46名。

◎新サークル、メンバー募集

◆『江戸名所図会』輪読会

江戸を遊ぶときにはバイブルともいえる『江戸名所図会』ですが、興味はあるけどボリュームがあって手に余るなあと嘆く人も多かろうと思われます。無論、必要なときに必要なところを利用すればいいのですが、もう一歩進んで「皆で読めばもっと楽しめる、そして読みきれる」を合言葉に、『江戸名所図会』の「復刻版」で原文を読んでみようとサークルを立ち上げます。読むという活動、部屋の広さなどを考慮し、20名ほどで始めることにします。参加ご希望の方は5月10日までに事務局あてに氏名、会員番号を明記してはがきでお申込みください。 先着20名で打切りとします(世話人・下永博道さん)。



●各サークルとも引き続きメンバーを募集しています。奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、はがきに①サークル名、②会員番号、③氏名をご記入の上、友の会事務局へお申込みください。また新しいサークルの立ち上げ希望の方は友の会事務局へお問い合わせください。

申込・問合せ先 130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 江戸東京博物館友の会事務局 Tel.03-3626-9910

◆役員会

2月11日(木)17時開催。10周年記念事業の各計画について具体的日程・予算等の確認をした。出席者12名。3月11日(木)17時開催。10周年記念事業各計画の進行状況、「友の会規約改正案」の最終確認等を行った。総会にむけた作業・進行スケジュールを確認。出席者12名。

◆事業部会

2月4日(木)17時開催。1、2月の 事業報告、および今後の事業計画を決 定。「江戸名所図会」のセミナーは急 遽2回講演にする程の大盛況。出席 者19名。

3月4日(木)17時開催。2月の事業

会議·会合日誌 2010/2~2010/3

報告と今後の事業計画と予算を確認。 活動に関する保険、観覧会の際の夜間 警備等についても協議。出席者19名。

◆広報部会

2月19日(金)14時開催。『えど友』 55号の方針の確認、「会員が選ぶ東京 新百景」の作業状況を確認。出席者 14名。

3月19日(金)14時開催。『えど友』 55号の入稿スケジュール、「会員が選 ぶ東京新百景」の作業状況を確認、ま た広報部会作業内容の確認、総会準備 の担当などを確認。出席者 12 名。

◆総務部会

2月24日(水)13時開催。『えど友』 54号の発送業務、次号の日程確認、 記念事業提案に関し確認。出席者19 タ

3月31日(水)13時開催。『江戸博 NEWS』69号の発送業務、総会準備 の日程等確認。出席者17名。

◆文政町方書上翻刻 プロジェクト 2月4日(木)、18日(木)、3月4日 (木)、18日(木) A、B グループと も例会開催。出席者は(A)各9名、 8名、7名、9名、(B)各9名、10名、 8名、10名。



三/輪から 南千住周辺を訪ねて

西村英夫

私が現在住んでいる場所は、秋葉原と浅草橋の中間で、江戸時代の切絵図では宗対馬守の上屋敷、向かいには藤堂家があり、その先には神田川が流れており、柳橋から隅田川に注いでいる所です。書くと何か好い場所に思えますが、雑居ビルが立ち並ぶ何の変哲もない所が今の場所です。そんなわけで、天気の良い日は自転車に乗って緑を求めて散歩に行きます。

今回、緑とは縁のない三ノ輪になぜ 行ったかといいますと、友の会の見学 会で「江戸百景」上野周辺の案内係を することになったからです。その下見 会で、「上野山下図」にある伊勢屋の 2階から官軍(薩摩兵)が鉄砲で黒門 を守る彰義隊に攻撃をしたとの説明を 受けました。一度は彰義隊に関する本 でも読んでみようと、近所の図書館か ら出来るだけ客観的に書かれたであろ う本を数冊借りて読んだところ、当時 の黒門が修復されて三ノ輪の円通寺に 移築保存されているのを知りました。 このため、現物を一度ぐらいは見てお こうと思い、自転車で浅草稲荷町、下 谷を通り三の輪の交差点を過ぎた左 手、目指す円通寺で異様な観音さん? が睥睨して出迎えてくれました。こ の寺になぜ黒門があるかはご承知の方 も多いかと思いますが、上野戦争で戦 死した彰義隊士が見せしめのために放 置されていたのを、この円通寺の住職 が官軍の許可をとり荼毘にふし遺骨を 寺に埋葬した縁だそうです。黒門は想 像以上に頑丈な作りで、角材も太く厚 く出来ていましたが、あちこちに銃弾 による穴があいていました、原型は修 復されたとはいえその姿をとどめていたので、砲弾による直撃は受けていないことが分かりました。

二度目の下見で、伊勢屋の位置から 上野の山と参道(ここに黒門があっ た)を見ますと、黒門のあった場所は 当時の土塁と山に遮られて見えない所 にあるように感じます。2階から官軍 の兵士は山に散開する彰義隊を狙った のか? そうだとすれば、今の西郷さ んの銅像が建っている辺りにあったと 言われている彰義隊の砲台(200 m 以内で見下ろせる所) からなぜ撃ち返 さなかったのか? ひょっとして砲弾 が届かなかったのか? 死角だったの か? 主戦場といわれた寛永寺の黒門 を円通寺で見て、疑問が疑問を呼び、 歴史の真実を知ることの難しさを味わ いました。歴史家や作家ではなく軍人 の戦略家が解説してくれれば直ぐに答 えが出るのでしょうが!

円通寺から小塚原刑場跡へ行きますと、大きな石像の首切地蔵が迎えてくれました。流石に薄気味悪く、早々にお参りして立ち退きましたが、当時は2千坪ほどの荒地に20万人位の罪人?が葬られたとか。今は数百坪の墓地になって脇には常磐線の線路が通っています。この線路の下に多くの人が葬られていたとは!

私も20代後半には松戸から毎日この電車に乗って会社に通っていたのですが、その当時は知らぬが仏であり、いま現在でも知りたくなかったことを知った一日になってしまいました。

柳原通り(土手)を歩く

佐藤美代子

「……夏の或る日、夕暮れも間近い時刻に柳原土手を歩んでいた秋山大治郎は……」(『剣客商売』助太刀)この柳原土手で扇子を買い求め、「……柳原土手に面した一角にある〔芋酒・加賀や〕と染めぬいたのれんをかかげ……「おやじ。熱い酒をたのむ」

……」(『鬼平犯科帳』兇賊)と鬼平さんはゆっくりお酒を飲み始めます。

時代小説の登場人物たちは、小説本の脇に開いた『江戸切絵図』の町や通りの中で歩き、買い、飲み始めます。

『江戸切絵図』の本には、現在の地図も付いているので「今はどうなっているか」という興味がどんどん膨らんで、いつも利用する秋葉原で電車を降り、神田川沿いを歩いてみました。

『江戸切絵図』には、浅草御門の側に「是ヨリ筋違迠ヲ柳原通ト云」と書いてあります。筋違御門は現在の万世橋と昌平橋の間にありました。現在は旧万世橋駅、JR中央線の高架のレンガ塀の中です。

中央通りを渡り、神田川に一番近い通りに入ります。現在の柳原通りです。 切絵図では神田川に沿った土手(柳原土手)が描かれています。この土手の名は太田道潅が江戸城の鬼門除けとして、柳を多く植えたことに由来しています。残念ながら、明治 6(1873)年に土手は崩され、現在はその痕跡はなく、川沿いにはビルが建ち並んで近づけません。江戸時代は古着・古道具街としても有名でした。

少し歩くと、川沿いに神社が見えて きます。京都伏見稲荷を勧請した柳森 神社です。境内は道路から低く落ち込 んだ位置にあるので、石段を下りて行 くと、鳥居の脇に狛犬ではなく、大き なお腹を抱えた狸が鎮座しています。 これは近くにあった福寿社(徳川五代 将軍の母桂昌院が崇拝していたもの) を移した社で「たぬき=他を抜きん でる」という意味から受験、勝運、出 世運、金運向上などにご利益があると 信奉されています。他にもたくさんの 神社の末社や富士塚、富士講石碑群、 力石群が一角を占めているので、鳥居 前のベンチで疲れた足を休めながら、 見学するのもいいでしょう。昨年初め て歩いた時には、たぬき祭り(10/2) でにぎわい、先日節分会(2/3)にも笛 と太鼓の神田囃子が鳴り響いていまし



▲タヌキが鎮座している柳森神社

た

神社を出て、柳原通りを東に歩くと、 昭和通りに出ます。神田川に架かる和 泉橋のたもとに、柳原土手跡の説明板 が立っています。

少し昭和通りを歩いて、靖国通りまで行きましょう。交差点の向こうに交番があります。その脇の細い道を少し入っていくと、左手に学校の門跡があります。神田お玉が池、千葉周作の北辰一刀流道場「玄武館」の跡です。いろいろな学校の敷地として使われていましたが、現在は使われていないようです。玄武館跡の石碑が立っています。日中は門が開けられているので、見ることが出来ます。

また、柳原通りに戻って、東へ歩いていくと、左手に美倉橋(江戸時代新シ橋)佐衛門橋(江戸時代はなかった)と続き、浅草橋にたどり着きます。ここで柳原土手は終わりです。

江戸時代、ここには、浅草御門(浅草見附)がありました。ここは、江戸城北東の守りを固める要地で、奥州街道が通り、浅草観音への道筋にあたるため浅草御門と呼ばれました。現在は、橋の北左側に碑が立ち、近くの初音森神社に昭和36(1961)年に発見された当時の門柱が置かれています。またこの付近に、奥州街道の先に連なる関東の幕府領地を治める郡代屋敷がありました。説明板が橋のたもとの交番の側にあります。

総武線電車で秋葉原から1駅、浅草橋はすぐそばです。『江戸切絵図』や『江戸名所図会』のような風景はありませんが、1駅の歴史散歩いかがで

しょうか。

(参考文献 『江戸東京散歩』 人文社)

江戸博に嫁入りした娘

秋 尾 暢 宏

昨年2月に私の三女が江戸東京博 物館に目出度く嫁入りしました。嫁入 りとか、娘とかというと多少誤解を招 くかもしれません。

娘とは、私が 40 年間にわたり収集 した雑誌の創刊誌コレクションのこと です

現役時代は仕事(広告)の関係もあり、また、自己研鑽のために、雑誌が創刊されると書店で購入しました。創刊号は内容が充実しており、特に、特集は欠かさず読破しました。

創刊誌を読むことにより、時代の流れ、ライフスタイル、生活者の考えを 把握する指針になったと自負しております。

女性誌、ファション誌を初め、旅、 クルマ、料理、パソコン、コミックなど、 「創刊」「デビュー」と表紙に明記し た雑誌は肉食動物のように購入して、 貪り読みました。

10年前、家を改築するにあたり、 紙袋に無造作に入れていた雑誌の収納 場所と重さに悩み、設計者に相談した ところ、地下室の提案があり、地下に 書斎と書庫を設けました。

地下室では、雑誌を一冊毎にビニー ルに封入、入力の作業をしつつ、関心 のあるテーマや事項があると、ビニー ルを開け資料として活用しました。

パソコンに入力して分ったことは、 結果として収集した雑誌は1400冊に なっていたということでした。

趣味は読書で、書店では新刊の書籍と雑誌のコーナーを徘徊して、創刊誌があれば購入を続けてきましたが、加齢とともに、この収集に疲れてきました。

また最近は雑誌が冬の時代を迎え、 廃刊・休刊ラッシュです。私が収集し た雑誌は黄金時代に発行したモノが中心ですが、廃刊・休刊した雑誌も多数あります。

今後も継続して購入するかどうか悩みました。新聞社の知人に相談したところ、私のコレクションを社会的、公共的な施設に寄贈したらとの提言を受けました。その知人のルートで、新聞に譲り先を探していると写真入りで紹介されました。新聞の影響力は大きく、多くの図書館、大学、企業、海外から問い合わせが殺到しました。

問い合わせ先の中から、社会的・公 共的な施設、大学、協会にしぼり、管 理・保管状況のチェックのために我が 家の書斎までお越しいただきました。

江戸博の学芸員である行吉氏も、その一人で、篤いラブコールがありました。私は江戸博のオープン直後に企画展を見学したことがありましたが、図書室の様相が全く判らないので、家内と久しぶりに江戸博を訪ねました。賑わいのある会場の中で、図書室は広々と開放的なスペース、静寂な雰囲気、整備された開架棚を拝見して、譲り先、つまり"嫁ぎ先"として申し分ないと実感しまして、江戸博にしようと決めました。

この度、創刊号コレクションの一般 公開が始まりました。第一期は3月 16日から4月25日、中高年・ヤン グ・総合・くらし・コンピュータ・モ ノ情報誌など約300冊です。第二期 は4月27日から6月6日、スポー ツ・健康・食・料理・文学・写真など 約300冊です。

江戸博にお越しの際には、図書室に お立ち寄り下さい。懐かしい、思い出 のある雑誌が見つかるかもしれませ ん。

さて、公開の初日に、嫁いだ娘と対面してきました。私には2人の娘がおります。家では創刊号コレクションのために書斎・書架という部屋を設け、紙の劣化を防ぐために一冊毎にビニールに封入することは、暖かい洋服を着

せる気持で文字通り家族の一員でし た。お分かりいただけますか、この三 女への親心を。

[注] 『江戸博 NEWS』69 号裏表紙 の「図書室だより」もご覧ください。

司馬江漢と『春波楼筆記』

佐藤幸彦

司馬江漢といえば高校の教科書に は、銅版画や油絵の日本における創始 者などと紹介されているのみでそれ以 上のことは記載が見つかりません。彼 には『和蘭天説』という天文学の本 や『和蘭通舶』という地理書の著述 があります。共にオランダの書物の翻 訳というよりは受売りの啓蒙書とでも いうべきかと思います。たとえば『和 蘭天説』には地球の歳差運動(地軸の みそすり運動)についても触れ、1年 あたり角度にして51秒、天の北極が 移動し、2万余年で元に戻ると記して います。これなどは高度の測定技術が なくては観測出来ないことで、彼はそ の根拠については全く触れずに割合正 確な数値を示しています。恐らく蘭書 の丸写しです。彼の交遊関係には、前 野良沢、杉田玄白、大槻玄沢、平賀源 内等の名が上がります。前野・杉田は 『解体新書』の翻訳のメンバー、大槻 玄沢は最も若く杉田よりも20歳ぐら い下の医師。司馬江漢も若い方ですが

玄沢よりも10歳年長でした。これら はオランダ語に深くかかわった人々で すが、その関わり方はいろいろです。 前野良沢は『解体新書』にとりかかる 前からかなり深くオランダ語を勉強し ていました。杉田玄白が『蘭学事始』 に記したようなゼロからの出発は、相 当オーバーな表現だと思います。そう なったのは、かなり以前から蘭学を勉 強していたことを、幕府の人々に知ら れたくなかったからかも知れません。 もっとも医学の専門用語となると、蘭 書を理解して日本語の用語を創作する わけで、その苦労は大変なものだった と思います。

彼らのうちでは大槻玄沢が、最も司 馬江漢の蘭書翻訳に協力したと言われ ます。玄沢は江漢より十歳若く、先輩 の質問や要望に懇切に応えていたよう です。この中で平賀源内は本業が薬種 商なので早くから蘭書を買い占めて勉 強していました。しかしその内容は植 物図鑑で、おもに植物の図と名前、そ れに簡単な薬効が書かれたものだと思 います。エレキテルなども主に実験器 械の図を見て装置を製作し、人を驚か せていたのです。司馬江漢は源内がエ レキテルの原理を理解していないこと を指摘しています。江漢の職業は絵師 ですが、啓蒙書を著わすことに熱心で した。それゆえ前野良沢や杉田玄白、 大槻玄沢などの蘭学者に混じって、源 内や江漢は蘭癖者とでも言った方が 適切なのです。

司馬江漢の随筆集『春波楼筆記』 は文化8(1811)年の著です。その中 に「江漢後悔記」という章がありま す。後悔記といっても現代の人が書く 「自分史」のように (失礼) 結局は自 慢話に落ちつくような話なのですが、 いろいろなことを齧った彼のキャリ アが語られていて興味をひかれます。 たとえば――若い頃、浮世絵の鈴木春 信が当世の女の風俗を描いて人気が あったが40歳を少し越して病死した。 自分はこの春信の偽物を作って板行し たが、よく売れて誰も偽物だとは言わ なかった。しかも世人は、鈴木春信は 司馬江漢だと言いはじめた。これでは 自分が埋もれてしまって面白くないか ら、春重と号することにした。婦人の 髪形が「鬢さし」と言うものを使っ て髷の形を整えるようになって、自分 の絵が売れなくなることを恐れて、浮 世絵は廃業した、ということです。

昨夏ギリシャ・コルフ島アジア美術 館のマノスコレクションが当館で公開 され(キャッチフレーズは写楽でした が)、その中に「春重」の作がありま した。鈴木春信にそっくりの美人画 で、春重は司馬江漢であると解説され ていました。『春波楼筆記』に思いを はせるのは私だけかも知れないな、と

第2回「えど友研究発表会」の発表者を募集します

昨年、友の会の新しい事業として
「えど友研究発表会」の発表者を募集します

昨年、友の会の新しい事業として
「えど友研究発表会」を行い、好評を
いただきました。「えど友研究発表会」の主旨は、長年の研究・調査の結果を
発表したいという会員のニーズに応え
るとともに、質疑応答・討議を通じ会
員相互の交流を深め、友の会の一層の
活性化に資するというものです。発表
テーマは「江戸東京の歴史と文化に関するもの」とし、特定の政治・宗教・信条・事業等の宣伝・広報に類するものは不可とします。また、発表者はち のは不可とします。また、発表者は友

ます。

6月上旬に応募者に連絡いたします。

[文七元結]



この、噺は三遊亭円朝の創作による 人情話で、芝居にもなっている演題で す。そして、司馬遼太郎は『街道をゆく 36 本所深川散歩』や、『同39 ニュー ヨーク散歩』の中で、"江戸っ子は実在 するか"という話題に、この噺を引合 いに出して、次のようにいいます。

•••••

言いきってしまえば、長兵衛さんの ような江戸っ子などは、存在しない。 が、ひょっとすると東京の下町のどこ かに存在しているのではないかという 願望が、百年、二百年、もたれてきた。 つまりその熱っぽい願望がリアリズム に類似する化合物になって、つねに立 ちのぼってきた。その気分が古典落語 になったり、"寅さんとその家族"(「男 はつらいよ|)という、長期シリーズ をつくらせてきたのである。

ここでは、江戸っ子の長兵衛さんの 歩いた道筋は別の機会に譲って、登場 人物の1人、文七さんの歩いた道筋を 歩いてみます。

白銀町

文七は白銀町3丁目にあった近江 屋卯兵衛の鼈甲問屋の手代です。この



▲浅草橋の案内板

文七が向島小梅にあった水戸様の下屋 敷に、100両の支払を受取に行きます。 その帰り道の出来事がこの噺の発端で す。

この白銀町3丁目は、今の日本橋 本石町4丁目、同室町4丁目辺りで、 この辺りに"近卯"が在ったことにな ります。ここから、"江戸通り"の室 町3丁目の交差点を経て、神田川に架 かる浅草橋を渡り、浅草方向に進みま す。そして、蔵前の商店街、蔵前1丁 目の交差点を過ぎ、厩橋西詰、そして 駒形橋西詰の駒形堂を右手に見て、更 に歩を進めます。すると吾妻橋西詰め の交差点に出ます。ここを右に曲がる と吾妻橋です。

吾妻橋

この橋は安永 3(1774)年に架けら れます。それまでは「竹町の渡し」と 呼ばれた渡し舟があった場所でした。 この架設は、浅草花川戸の町人が幕府



▲駒形橋からの吾妻橋

に願い出て許されできたもので、この 頃から江戸の北西部の近郊が江戸市街 に取り込まれはじめたことを示してい ます。初めは大川橋と呼ばれていまし たが、明治9(1876)年に架けかえた 際に、それまでの俗称「吾妻橋」が正 式な名称となって現在に至っています。

民間の橋ですから、武士以外の全て の通行者から2文ずつ通行料を取った と記録に残っています。文七さんや長 兵衛さんは、これを払って渡ったので しょうか。

金を盗まれたと勘違いした文七が、 ここから飛び込もうとするのを引き留 めた長兵衛は、持っている金を押しつ けます。ここの演じ方を八代目 林家 正藏(彦六)が語っています。

あそこは、なるたけとっさに出せっ



▲源森川に架かる枕橋

てんですね。これは初代伊藤痴遊さん が教えてくれたんです。「金てえものは、 いかに江戸っ子でもなんでも、時がた つてえと自分の分別が先へ立っちゃっ て、なかなか人にやれないもんだ」と いうんです。寄附金も、とっさの場合 に出すのと、あとで程よろしい所と はちがいますから、だからとっさの場 合に出せと。

この吾妻橋を渡って左に折れて進み ます。ここの角のビルの屋上には、金 色のオブジェがあります。大川を左手 (頭上は首都交・向島線) に見て道な りに進みます。アサヒビール本社、墨 田区役所(ここには勝海舟の立像があ ります)を右手に見て道なりに進むと 下り坂になり、墨堤通りに出ます。こ こを左に曲がります。源森川(北十間 川)に架かる枕橋を渡ります。

水戸家下屋敷

この枕橋を渡ったところが、当時は 小梅と呼ばれました。今は隅田公園と なっていて、ここに水戸徳川家の下屋 敷がありました。元禄6(1693)年に 浜町からここへ移されたとのことです。 源森川(北十間川)の北が向島、南が 本所です。

「文七はお久(長兵衛の娘)と夫婦 になり、主人が暖簾を分けて、麹町六 丁目に元結屋の店を開いたというおめ でたいお話でございます」となって、 この噺は終わります。

しかし、当時の仕来りから言えば、 文七が手代からいきなり暖簾分けなど、 とてもあり得ないことだったと思うの ですが、そんな穿鑿などは野暮ですね。 【取材】歩いた人(文・写真):

広報部会・岡田守弘

イラストを描いた人:同・松原良

催事案内

古文書講座

新年度は5月から開講

新年度第1期は5月から開講します。申込の受付は終了していますが、以下日程をお知らせします。本年度から入門編、初級編、中級編の各編すべてが2講座制となります。ただし、7月については会場の都合で各講座ともすべて午前のみで、また入門編、初級編については通常の週と異なりますので、注意してください。

◆入門編

- ●講師:小松賢司さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ●開催日:5月12日(水)、6月2日(水)、7月14日(水)*7月14日(水)はA、P講座ともA講座で合同講義

◆初級編

- 講師:田中潤さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ・開催日:5月19日(水)、6月16日(水)、7月28日(水)*7月28日(水)はA、P講座ともA講座で合同講義

◆中級編

- 講師:長坂良宏さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ●開催日:5月15日(土)、6月19日(土)、7月17日(土) *7月17日(土)はA、P講座ともA講座で合同講義
- 時間:A講座は10:30~12:30
 P講座は14:00~16:00
- ●会場:各講座とも江戸博1階会議室または学習室1、2
- ●参加費:各講座とも全3回1,500円(初回一括払い)

【企画担当責任者】上田太一(事業部会)

友の会特別観覧会

●特別展「大昆虫博」

- ◆古くから続く日本人と虫たちの関係を、貴重な標本や文献資料、映像などから紹介する特別展です。江戸博が所蔵する資料にも四季折々の虫を楽しむ人々を描いた浮世絵や、虫をモチーフにした工芸品など、虫を題材にしたものが多数あります。これらの資料からは、昆虫が私たちの生活や文化と深い関わりを持ってきたことが分かります。本展を体験することにより、「昆虫」という小さな命の輝きを身近に感じ、これらをはぐくむ自然環境を考える一助にしてもらいたいと思います。担当の橋本由起子学芸員による「見どころ解説」をお願いしていますので、ご期待ください。
- 開催日:6月25日(金)17:00~19:00
- 申込締切:6月15日(火)必着
- 会場:江戸東京博物館・1 階映像ホール/企画展示室
- ●定員:100名 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費:会員 500 円・同伴者 700 円(当日払い)

【企画担当責任者】松原良(事業部会)

友の会セミナー

第 93 回「江戸の弁財船(菱垣廻船、樽廻船など)」

講師 小堀信幸さん (船の科学館・学芸部長)

- ◆百万都市・江戸の人々の生活を支えたのが、大坂から米や衣類などの生活物資を大量に運んだ「菱垣廻船」や「樽廻船」などの弁財船にほかなりません。しかし、こうした弁財船は横帆1枚という古典的帆走からの連想か、明治以降弁財船は順風でしか走れなかったという誤説がまかり通っています。そこで今回は弁財船は内航廻船としてこんなに優れていたという研究成果や復元弁財船"みちのく丸"や"浪華丸"での帆走試験で実証された話を中心に、江戸博の展示室に展開する幕府御船方の軍船など江戸期の船についてお話していただきます。
- ○講師略歴: こぼり・のぶゆき

昭和24(1949)年生まれ。東海大学海洋学部水産学科卒業。船の科学館入社、現在「大型船舶の保存」について取り組み中、同館学芸部長。

- ●開催日時:5月22日(土)14:00~15:30
- 申込締切:5月11日(火)必着
- 会場:江戸東京博物館・1階ホール
- ●定員:200名 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費:会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】小林弘明(事業部会)

第94回「江戸下町=ベネチアコピー説について」 講師 圓山稔さん (NPO 法人江戸連事務局長)

- ◆伊場仙・吉田社長の説によると、ベネチアの面積、形状(真ん中を蛇行したカナル・グランデが流れ、かつほぼ中央にあるリアルト橋のたもとに魚河岸があるなど)は江戸下町(日比谷入江等の埋め立てによって作られた部分で、中央を蛇行した日本橋川が流れ、日本橋のたもとに魚河岸があるなど)と酷似しているといいます。今回は水の都=江戸下町の成り立ちについて、詳細に解説していただきます。
- ○講師略歴:まるやま・みのる

昭和20(1945)年東京生まれ。昭和43(1968)年度東大農学部卒業。住宅・都市整備公団にて街づくりの業務に携わる。現在、NPO法人・江戸連の事務局長として、江戸を遊び、江戸を学び、江戸の良さをいまに活かす活動を行っている。

- ●開催日時:6月26日(土)14:00~15:30
- 申込締切:6月15日(火)必着
- 会場:江戸東京博物館・1階会議室
- 定員:130名 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費:会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】柳澤誠一郎(事業部会)

「再訪・江戸四宿を歩く―品川宿その1」

◆平成16年から19年にかけて、多数のご参加をいただ いた「江戸四宿を歩く」シリーズを再開することとし ました。第1回はやはり品川宿から始めたいと思いま す。品川宿は最盛期には180軒の旅籠を数え、また風 光にも恵まれ、市民の行楽地としてにぎわいをみせま した。散策コースは品川駅をスタート、八ツ山橋から 旧品川宿に入り、目黒川までの北宿を歩き、家光の命 で沢庵のために創設した東海寺を巡り、新東京百景の 一つ・品川神社を経て京急線新馬場駅まで、約3時間 のコースを予定しています。

• 開催日:7月3日(土)12時45分集合 集まり次第、時間前でも順次出発します。

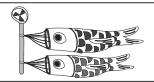
● 集合場所: JR 品川駅高輪口 ● 申込締切:6月22日(火)必着

●定員:150名 同伴者可(はがきに氏名、住所、電話番

号連記)

●参加費:会員、同伴者とも500円(当日払い)

【企画担当責任者】玉木達二(事業部会)



お申込方法

- *「えどはくカルチャー」など江戸博への申込と違い、普通は がきで宛先も友の会事務局と明記ください。お間違いなく!
- ◆普通はがきに、①催事名(略名可)・開催日、②会 員番号、③氏名(同伴者連記)を明記して下記の「友 の会事務局」へ。

「往復はがき」の必要はありません。

なお、見学会に限り傷害保険の関係で同伴者の氏名、 住所、電話番号も書いてください。

- ◆締切:各催事の案内をご覧ください。
- ◆申込は、各催事ごとに会員1人1通。
- ◆友の会へのご意見・ご要望があればご記入ください。
- ◆申込先:〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 江戸東京博物館友の会事務局
- *お申込いただきますと、「受講票」をお送りします。当日 ご持参のうえ、受付でご登録ください。

なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数 日後一斉にお送りしますので、それまでお待ちください。

- *いずれも申込多数の場合は抽選となることがあります。
- *「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などは なるべく事務局員出勤の水曜日か金曜日(10時~12時、 13 時~ 17 時) にお願いいたします。
- *「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込をし てからご参加ください。

会員優待のお知らせ

2010年NHK大河ドラマ 特別展



「龍馬伝」

会 期 2010年4月27日(火)~6月6日(日)

休館日 5月6日(木)、24日(月)、31日(月)

会 員 一般600円、65歳以上300円、大·専門生480円

同伴者 一般960円、65歳以上480円、大・専門生760円

*小学生・中学生は無料、高校生は65歳以上と同じ

次回予告

●特別展

「大昆虫博」

会 期 2010年6月22日(火)~9月5日(日)

休館日 毎週月曜日、ただし7月19日(月・祝)は開館、 7月20日(火)は休館

会 員 一般650円、65歳以上320円、大・専門生520円 同伴者 一般1,040円、65歳以上520円、大·専門生830円 *小学生、中学生、高校生は65歳以上と同じ

企画展のご案内

好評開催中

●企画展

「市民からのおくりもの2010

~平成21年度収集 新収蔵品から~ ▮

- 会 期 2010年4月24日(土)~5月26日(水)
- 会 場 常設展示室5階 第2企画展示室

●次回企画展

「発掘された日本列島2010」

- 会 期 2010年6月5日(土)~7月25日(日)
- 常設展示室5階 第2企画展示室

原稿を募集します!

会員の投稿欄「えど友プラザ」への原稿を募集し ています。戦前戦後の思い出、名所めぐりの感想、 趣味や所属サークルのできごと、あるいは東京や江 戸に関することなどを1000字程度にまとめて事 務局宛お送りください。採用分については記念品を 差し上げます。なお、原稿はお返ししません。

会報<えど友>第55号

平成 22 年 5 月 1 日発行(奇数月1日発行) 編集・制作:江戸東京博物館友の会広報部会

編集長兼発行人:松原良(会長) 副編集長:菅沼和男編集人:佐藤幸彦、稲垣武志、岡田守弘、岡本静雄、深尾恵美子、福島信一、松田悠美子、中里弘子、内匠屋京子、笹川道央、栗山佳也、秋尾暢宏、今野君江、鈴木進一、中村貞子、原盛年、藤原理子、佐藤美代子

発行: 江戸東京博物館友の会

〒 130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 電話 03-3626-9910